

2009年度(平成21年度)共通教育テーマ別科目「日本列島の誕生」  
期末定期試験問題

この授業の締めくくりとして、日本列島の将来の姿について考えてみてもらいたい。いまから2億5千万年前の地球では、すべての大陸は集まって北極から南極にまでいたる超大陸「パンゲア」を形成していた。それがばらばらに分離して現在のような大陸の配置となったが、いまから2億5千万年後にはそれらがふたたび集まってひとつの超大陸となることが予測されている。右図をみてもらいたい。

新しく形成される超大陸について、プレートの今後の運動方向の継続あるいは変化、新しい沈み込み帯の形成の有無などを根拠に主要な説が3つ提唱されている。うえから順に「ノボパンゲア(Novopangaea)」、「アメイジア(Amasia)」、そして「パンゲア・プロクシマ(Pangaea Proxima)」となる。

ではここで問題。将来の形成が予測されるこれらの3つの超大陸のうち、「これだ！」と思うものをまずひとつ選ぶ(そう思う根拠は提示しなくてもかまわない)。そして、このときの日本列島の位置(図に赤丸で示す)から、このときの日本列島付近の地形および日本列島におけるこの時代の気候がどのようなものであるか、現在の地球と比較し考察したうえで記載せよ。いずれの説でも日本列島はすでに「列島」ではないが、ここでは便宜上日本列島と書いてある。解答は罫線の入った所定の解答用紙に記述すること。必要ならば解答中に図を書いてもかまわない。

なお、この講義での成績の評価にあたっては、毎回の授業における問題への解答と課題レポートの結果を総合してまず100点に換算する(毎回の問題が70%、レポートが30%)。インフルエンザなどによる思わぬ欠席を考慮し、1回以上の欠席者については全員に1回分の出席点を加算する。つぎに、この期末試験の結果を100点満点で採点する。そして、両者を比べよりよい点数をもってこの講義の最終成績の判断基準とする。

環日本海域環境研究センター 塚脇真二  
tukawaki@t.kanazawa-u.ac.jp or shinji10800@yahoo.fr

